

～iCSレター 特集号～

板橋区コミュニティ・スクール

導入推進校 校長インタビュー

～第1回推進委員会を終えて～

平成30年8月発行
地域教育力推進課 地域連携係
TEL 3579-2619

はじめに

区教育委員会では、2020(平成 32)年度に区内の区立小中学校全校で「板橋区コミュニティ・スクール」を本格導入するため、2018(平成 30)年度に区立小中学校 10 校（小学校 7 校、中学校 3 校）を「板橋区コミュニティ・スクール導入推進校」に指定し、「コミュニティ・スクール推進委員会」を設置しました。

本冊は、板橋区コミュニティ・スクール導入推進校 10 校の校長先生に、平成 30 年 4 月～5 月にかけて各校で開催されたコミュニティ・スクール推進委員会の第 1 回目の会議を終えての感想や委員の人選、学校の課題、今後の意気込み等について、インタビュー形式でお伺いした内容の一部をまとめたものです。

2019(平成 31)年度のコミュニティ・スクール推進委員会全校設置や 2020(平成 32)年度の板橋区コミュニティ・スクール全校導入に向けた、各学校での準備や取組の参考にさせていただければ幸いです。

また、インタビューに際し、ご多用の中お時間を割いて快くお受けくださいました、板橋区コミュニティ・スクール導入推進校 10 校の校長先生におかれましては、この場をお借りしてお礼申し上げます。

～目 次～

01	志村小学校	P.1
02	中台小学校	P.3
03	舟渡小学校	P.5
04	蓮根第二小学校	P.7
05	常盤台小学校	P.9
06	成増小学校	P.11
07	高島第六小学校	P.13
08	板橋第一中学校	P.15
09	加賀中学校	P.17
10	赤塚第三中学校	P.19



01 志村小学校

平成 30 年 6 月 15 日 回答者：平岡 そえみ 校長先生

Q 第 1 回推進委員会を終えてみて、感想等を聞かせください。

A 委員の方からも提案がありましたが、形式的にならずに、本当に熟考するようなものにすることが大切です。具体的に学校が課題として捉えていることを示し、事前に調べていただいたり、資料を提供していただいたりできるように状況を整えてから会を持つべきだと思いました。



Q 会議開催の日程について、時間帯や曜日についてどのように決定しましたか？

A 年間で 5 回とありますが、それに縛られることなく、何か課題があったら集まろうというご意見もありました。5 回については学校の日程に合わせてお示しして、それに限らず意見をいただきたい時には、臨時でお集まりいただくことを考えています。

Q 学校が抱えている課題について、あれば教えてください。

A 教育活動の充実に向けて、様々な方がボランティアとして活躍していただいておりますが、情報等の共有が十分ではありません。職員もそうですが、地域や保護者の方にも広く知っていただくことが、学校、地域とのつながりの意識を高めることにもつながります。今後、さらに共有していきたいと思っています。

Q 教員の負担軽減を視野に入れた学校経営に iCS をどのように活用しますか？

A 教員は授業が勝負です。授業づくりにどれだけ時間を割けるか、また、自分の心身のためにもできるだけオーバーワークしないような配慮をしていかないとはいけません。推進委員会の皆さんにご意見等をいただきたいと思っています。

Q iCS を推進する上で、校長先生や委員長としてどうしていきたいですか？

A 私から一方的にこうしますというよりも、色々な方から実現に向けてのアイデアを出していただきたいです。それを基に、皆さんで協議をしながら、ベターな方法について、実行していく形にしたいと思っています。

また、コミュニティ・スクールを導入して、教員・地域・保護者がやって良かった、皆さんが笑顔になるような企画を入れていくことも考えています。

Q 推進委員会を運営してみて、他の 63 校の校長先生に向けたアドバイス等があればお願いします。

A 課題や議題を明確にしておくことと、校内の組織についてもしっかりしたものを持っておくことが、必要かなと思います。例えば、通知を出したり、コーディネーターとの調整をしたり等、実働部隊としての組織をしっかりしておく、進めやすいと思います。

Q ずばり、iCSをひとことで表現するとどのような表現になりますか？

A 「学校改革」です。本当の意味での「開かれた学校」が実現すると思います。

Q iCSに期待することを教えてください。

A 皆さんの知恵と力です。学校をどんどん高める元気の素になっていただけます。子どもを中心に据えて、地域にいる大人全員が、良い方向へ高めていく。その核になるのがiCSだと思います。



第 1 回 推 進 委 員 会 基 本 情 報

- ◆日 時：平成 30 年 4 月 18 日（水） 10 時 30 分～
- ◆会 場：志村小学校 校長室
- ◆会次第：①校長挨拶
②委嘱状伝達
③本年度の経営方針
④年間行事予定
⑤自己紹介
⑥質疑応答
⑦事務連絡

02 中台小学校

平成 30 年 6 月 21 日(木) 回答者：海藤 美鈴 校長先生

Q 第 1 回推進委員会を終えてみての感想等を聞かせてください。

A 第 1 回目を顔合わせの会だと考えていましたが、最初から熟議を行ってもよかったですと考えています。

Q 全教職員の方が参加されていましたが、それに合わせた開催日程にしましたか？

A そうですね。学校運営連絡協議会の時には 4 月に開催していましたが、協議会の委員の方から、体制の整った 5 月に開催してほしいという要望がありました。

また、教員も 4 月より 5 月の方が、自分のクラスや学校という意識が出始めているので、5 月の開催にしました。

Q 委員の人選はどのようなことを考慮しましたか？

A ほとんど学校運営連絡協議会のメンバーをスライドさせて、何名か新たに入れていただきました。

あと、町会長をメンバーに加えなくて良いか最後まで悩みましたが、最終的には町会長ではなく、青健会長に入らせていただきました。

Q 副委員長の選任はどのようにして行いましたか？

A もともと学校運営連絡協議会の代表でもあり、学校支援地域本部の代表もお願いしている方で、また、子どもたちの活動について上板橋商店街に色々支援していただいています。その商店街の組合理事長でもあり、キャリア教育や地域のお祭りの参加等も仕切っている。そういう意味では 1 番欠かせない人に副委員長を選任しました。

Q 今後、熟議等でどのようなことを話していく予定ですか？

A 行事が大分膨らんでしまったので、授業に食い込まずに学力を上げながら、効果的な行事を行っていくのにどう協力してもらえるか意見をいただきたいと思います。



Q 教員の負担軽減を視野に入れた学校経営に i C S をどのように活用しますか？

A 育てたい子どもというところを目指して、膨れすぎてしまったものを少しスリム化して、直線でそこに目指していけるようにすると、先生たちの負担も軽くなると思うので、今後 i C S の仕組みを活用したいと思っています。

地域コーディネーターの方に、担任が連絡をとれるシステ

ムが構築されているので、そこは本当に負担軽減になっていると思います。

Q iCSを推進する上で、校長先生や委員長としてどうしていきたいですか？

A キャリア教育をやっていきたいという想いがあり、それについて色々行ってはいますが、整理されていません。なので、この機にコミュニティ・スクール推進委員会の委員の方の協力を得て、校長や副校長が変わっても中台小のキャリア教育がスリム化されて、きちんとできるものを皆さんと作りたいと考えています。

Q 推進委員会を運営してみて、他の63校の校長先生に向けたアドバイス等があればお願いします。

A 学校支援地域本部が軌道に乗っていない学校は大変だと思います。それが軌道に乗れば副校長の仕事も軽減されますし、依頼や学年間での調整も地域コーディネーターの方が行ってくれるので、まずはそこをしっかりと整えることが大切だと思います。

Q ずばり、iCSをひとことで表現するとどのような表現になりますか？

A 「学校地域熟議会」みたいな感じですかね。

Q iCSに期待することを教えてください。

A 板橋区の学校力が上がると思います。すごく力強い教育活動ができるようになり、その結果として、板橋区に住みたい、板橋区の学校に入りたいという子も増えると思います。

地域がバックアップしてくれている教育があるということが、その学校に入りたいという保護者の想いにつながると思います。



第1回推進委員会基本情報

- ◆日時：平成30年5月18日（木） 15時10分～
- ◆会場：中台小学校 ランチルーム
- ◆会次第：①校長挨拶
②自己紹介（委員、教職員）
③学校経営方針・主な教育活動について（年間行事予定）
④学校支援地域本部の活動について 報告・計画
⑤情報共有・意見交換

03 舟渡小学校

平成 30 年 6 月 13 日(水) 回答者：東 みどり 校長先生

Q 委員の人選はどのようなことを考慮しましたか？

A 学校運営連絡協議会の委員をスライドしましたが、もともと 11 人いたので、1 人をオブザーバーという形で全員参加してもらっています。人数が多ければ多いほど揃わないジレンマがあるので、10 人という人数は妥当だと思いました。



Q 副委員長の選任はどのようにして行いましたか？

A 委員の方から紹介をされて、元大学教授という方で他の委員も納得してくださると思い副委員長に選任しました。しかし、引っ越しをされたので、長いスパンで委員長は難しいと思うので、今後委員長候補を探していきたいと思います。

Q 会議開催の日程はどのように決めていますか？

A 土曜授業プランはイベント的なことが入るので、時間の枠組みが難しいというところがありますので、平日の夕方の開催にしています。

Q 学校が抱えている課題について、あれば教えてください。

A 学校の課題は様々あると思いますが、地域と協力したいという部分では、学力向上の部分です。授業だけでは学力向上は難しく、放課後学習には十分に人が割けていません。学習指導講師 2 名はいますが、もう少し人手が欲しいというところで、地域の方に放課後学習に入っていただきたいと思います。そこで、音読を聞いてくれたり、丸付けをしてくれたりしていただければ助かります。

Q 教員の負担軽減を視野に入れた学校経営に iCS をどのように活用しますか？

A キーワードは「納得」だと思います。教師としてやっていることを認めてもらって、応援してもらえるものがあれば、先生たちも納得するし、新たな取組もやってくれと思います。そしてやってみて楽しかったとか、自分の能力が発揮できたと思えば、少々手間がかかることでも、やりがいを感じられると思います。

Q iCS を推進する上で、校長先生や委員長としてどうしていきたいですか？

A 肩に力を入れずに、学校運営連絡協議会の延長でいきつつ、コミュニティ・スクールの大きな柱である学校経営方針の承認や人事については明確に打ち出していき、委員会が学校経営の頭脳であるところを色濃く打ち出していこうと思います。

コミュニティ・スクールの委員の総意というところも含めて、学校としての考えを

保護者や地域に伝えられることです。校長一人の考えではないことに重みがあり、地域の学校と言われるようになると思います。

Q 推進委員会を運営してみて、他の 63 校の校長先生に向けたアドバイス等があればお願いします。

A 委員の人選がポイントになると思います。学校に対して懐疑的な方や非協力的な方が入ると前に進まないこともあります。私が以前勤務していた区では、学校と委員会で対立している学校もあり、学校経営が円滑に進まないようでした。そのため学校教育にご理解いただける方に委員をお願いして、スタートした方が良いと思います。そこで軌道に乗ってきたら学識経験者を入れてみるとか、多様な人材を取り込んでみると良いと思います。

Q ずばり、iCSをひとことで表現するとどのような表現になりますか？

A 「iCSのiを重ねてii(いい)学校にするチーム」ですね。iがつくものは何でも入れ込んでいいと思います。



Q iCSに期待することを教えてください。

A 楽しくやるために知恵を出し合うことです。

第 1 回 推 進 委 員 会 基 本 情 報

- ◆日 時：平成 30 年 4 月 12 日（木） 16 時 00 分～
- ◆会 場：舟渡小学校 校長室
- ◆会次第：①校長挨拶
②委嘱状交付
③副委員長選任
④質疑・応答
⑤情報共有・意見交換

04 蓮根第二小学校

平成 30 年 6 月 13 日(水) 回答者：大野 忠雄 校長先生

Q 委員の人選はどのようなことを考慮しましたか？

A 蓮根第二小学校に今まで深く関わっている方で、特に中心的に頑張っていた方、町会・自治会で学校に深く関わっていた方等、学校を大事にしている方を選びました。



Q 副委員長の選任はどのようにして行いましたか？

A この学校と 1 番深く関わりがあるのは、学校支援地域本部ではありますが、地域全体との結びつきを視野にして考えると、蓮根三丁目自治会が大きな役割を果たしているため、自治会長を副委員長に考えています。

Q 会議の開催にあたり、不安や悩み等はありませんでしたか？

A できることから始めて、新しいことをしなければいけないということではなく、今までやってきたことを、形に合わせてやっていくということだと思っているので、不安や大変さはありませんでした。

Q 会議開催の日程について、時間帯や曜日についてどのように決定しましたか？

A 教育活動を見ていただいた後、熟議等をしてもらいたいため、土曜授業の際に開催しました。また、会社員の方が多いので、平日より土曜日の方が出やすいというのもありました。

Q 教員の負担軽減を視野に入れた学校経営に iCS をどのように活用しますか？

A 本校の学校支援地域本部は、教員の仕事をなるべく減らすという思いがかなりあり、なおかつ、そのことで教員も良いし、子どもたちもさらに良いということで、学校支援地域本部がそのような趣旨になっていますので、そこを活用していきたいです。

本校の芝生についても、本来は教職員が管理をしなければいけません。本校の場合は、学校支援地域本部の皆さんに毎週管理していただいているので、負担軽減になっています。

Q iCS を推進する上で、校長先生や委員長としてどうしていきたいですか？

A 実際にコミュニティ・スクールに移行した際に、委員長の仕事が明確になっていることが大事になってくると思います。なので、そういう道筋をしっかりと固めることが私の役割だと思っています。この 2 年間の中で、学校長の想いをコミュニティ・スクールで検討し、解決していく道筋がきちんとできていれば、誰が委員長になっ

でもその道筋どおりに進めば不安なく教育課題に向き合えるというシステム・道筋を、2年間で分かりやすく作っていきたいと思っています。

Q 推進委員会を運営してみて、他の63校の校長先生に向けたアドバイス等があればお願いします。

A 特段の準備等は必要ないと思っています。学校支援地域本部についてはすべての学校できていると思いますが、学校支援地域本部の力をいかに活用するかということで、支援・協力から一緒に教育課題を考えるために本音で話し合うことが大切だと思うので、特段何か構えて準備するのではなく、とりあえず一步を踏み出すことが大事だと思います。

Q ずばり、iCSをひとことで表現するとどのような表現になりますか？

A 「協働」でしょうね。

Q iCSに期待することを教えてください。

A 学校の教育活動は子どもたちをよりよく育てたいという想いがあるので、子どもたちの育ちを学校の教員だけではなく、保護者・地域等みんなで地域の子どもたちを育てることができれば良いですね。



第 1 回 推 進 委 員 会 基 本 情 報

- ◆日 時：平成30年4月21日（土） 14時30分～
- ◆会 場：蓮根第二小学校 校長室
- ◆会次第：①校長挨拶
②自己紹介
③板橋区コミュニティ・スクールについて
④学校経営方針について
⑤年間行事予定について
⑥質疑応答

05 常盤台小学校

平成 30 年 6 月 18 日(月) 回答者：田口 洋子 校長先生

Q 第 1 回推進委員会を終えてみて、感想等を聞かせてください。

A 4 月から着任したので、どういうメンバーでどういう話し合いになるのか不安ではありましたが、思いの外ざっくばらんに話していただくだけでなく、前向きな意見もいただけたので、すごく心強い会議になりました。

Q 今後会議開催の日程について、時間帯や曜日についてどのように決定しますか？

A 子どもの色々な姿を見ていただきたいので行事の際に開催する時もあれば、夕方に教職員との顔合わせや短時間でのグループディスカッション等を設定して、委員の想いや教職員の日頃の悩み等を生の声で伝え合うことのできる場としたいと思っています。

Q 副委員長の選任はどのようにして行いましたか？

A 副委員長については、前任の校長が選任しました。私も、実行力や学校支援地域本部コーディネーターとしての実績から 1 番適任であると思っています。日常的に学校に来ていただいている、その都度細かい話をしています。さらに、先生方や子どもたちとの関係も良好で、学校を 1 番理解していただいていると考えるからです。

Q 現在学校が抱えている課題等がありますか？

A 学校の課題としては、色々な意味で 2 極化が激しいと思っています、通常に言われている 2 極化よりさらに極が離れているように感じます。

Q 現在学校が抱えている課題等を iCS で取り上げていきますか？

A 2 極化を縮めていくためには、それこそコミュニティ・スクールの力が有効だと思います。家庭や地域や学校が同じ視点で、アプローチしていくことが重要だと考えるからです。今は、同じスタンスが大事なのか、役割を分けていくことが必要なのかは分かりませんが、同じ目標点を持っていることが重要なことだと思います。言葉だけでなく、本質的な部分を共通理解したいと思っています。



Q 教員の負担軽減を視野に入れた学校経営に iCS をどのように活用しますか？

A ここが 1 番難しいところです。今のままの考え方やスタイルを変えて行かなければなりません。なぜなら、日常的なテストの丸付けをお願いする場合、個人情報の問題等が出てくるからです。さらに、今まで通りのやり方でたくさんの機会を作ると、ミーテ

ィングの時間が多くなり負担増に繋がることも考えられるからです。そこで、様々な場面で、従来の意識を変え方法を工夫・見直ししていくつもりです。そして、今まで以上に家庭科等の技能的な部分の指導についても、本格的に地域力を活用していきたいと思っています。

Q iCSを推進する上で、校長先生や委員長としてどうしていきたいですか？

A 基本的な考えをできるだけシンプルに分かりやすく提示していきたいです。従来は、共通項を管理職・教員・家庭の3者が理解する形をとってきました。今後はそれを地域に広げていきたいと思っています。シンプルで骨になる部分を共通理解し、本質的な部分を共通認識していくことが大事だと思っています。

Q 推進委員会を運営してみて、他の63校の校長先生に向けたアドバイス等があればお願いします。

A 寺子屋や支援本部についてもそうですが、その学校の特性に応じた形があると思うので、その学校のやりやすい形をやっていくのが1番良いと思います。

さらに私は、イベント型のものがコミュニティ・スクールとは思っていません。支援本部同様、日常の学習や安全にどれだけ支援いただけるかが重要だと考えています。ですから、継続性や地域の人材活用を優先に考えることが大切ではないかと思っています。

Q ずばり、iCSをひとことで表現するとどのような表現になりますか？

A 「学校のわ（輪・和）」ですね。

Q iCSに期待することを教えてください。

A 教員だけではできない力をもらえたら、そして、学校の教員こそその力を地域に役立てられたら良いと思っています。



第 1 回 推 進 委 員 会 基 本 情 報

- ◆日 時：平成30年4月23日（月） 10時00分～
- ◆会 場：常盤台小学校 会議室
- ◆会次第：①校長挨拶
②自己紹介
③委嘱状交付
④学校経営方針について
⑤情報共有・意見交換
⑥副委員長選任

06 成増小学校

平成 30 年 6 月 18 日(月) 回答者：氣田 眞由美 校長先生

Q 第 1 回推進委員会を終えてみて、感想等を聞かせてください。

A 開催後に、この学校を支えてくださっている方々が、改めて子どもたちのことを本当に大事にしてくれていると感じて大変嬉しかったです。

あとは、学校運営連絡協議会と i C S がどう変わるのかという声をもっと出ると思っていたのですが、意外とそうでもなかったです。

Q 委員の人選はどのようなことを考慮しましたか？

A 全く新しいメンバーにするのは実態にそぐわないと思いましたので、学校運営連絡協議会のメンバーを主体として、そこに町会代表や民生・児童委員や青少年委員の方を入れました。

Q 副委員長の選任はどのようにして行いましたか？

A i C S の特徴が学校支援地域本部と両輪の関係なので、学校支援地域本部の方がやるのが適任だと思いました。

Q 会議開催の日程について、時間帯や曜日についてどのように決定しましたか？

A 土曜授業プランの日に開催することで、前半で授業を見ていただき、子どもの実態を見ていただいた後に会議を設定したので、子どもの姿が目に見えながら話ができたといいことで、とてもよかったという声もいただきました。それとやはり平日よりも集まりやすいということで、土曜授業プランの日に設定しました。

Q 現在、学校が抱えている課題等がありますか。

A 本校の場合は、子どもたちの学力は高く力はありますが、自分の想いを発信して、それをきちっと受け止めて、そこで関わりを深めていくといった対話がまだまだだと思っているので、そこを全体の教育活動を通して行っていきたいです。

Q 先生の負担軽減を視野に入れた学校経営に i C S をどう活用していきたいですか？

A それぞれが当事者意識をもって、それぞれの役割を果たすことで、役割分担をしつつ、共通として子どもたちのためにといいことを外さないように、上手い役割分担ができれば良いと思っています。支援本部の活動が継続されてきていますが、読み聞かせボランティアについて、今までは教員が通知の発送や表の作成等行っていたのですが、それを支援本部に引き継いだことで、とても助かっています。



Q iCSを推進する上で、校長先生や委員長としてどうしていきたいですか？

A 校長がどのくらいiCSを理解して、強みやプラス面を教員に伝えていくかが鍵になると思っています。学校経営についての校長の想いを、同じ方向で一緒に歩んでくださいということを示して、了解をいただくことだと思っているので、そのことを地域の方に示すためにも、まずは教職員にどれだけ伝えていけるかということで、意識を高めていかなければいけないと強く思っています。

Q 推進委員会を運営してみて、他の63校の校長先生に向けたアドバイス等があればお願いします。

A 校長がいかにこれを負担に感じず、一緒に考えてくれる人ができたという思いで、強みにするかが大事だと思います。運営上では、細かいことは色々でてくると思いますが、それを含めてみんなで考えていこうということなので、学校が完璧に示す必要はないと思っています。

Q ずばり、iCSをひとことで表現するとどのような表現になりますか？

A 「地域の核となる学校を支える仕組み」だと思います。

Q iCSに期待することを教えてください。

A より学校が地域と協働していくといった思いで、校長としては学校の経営にあたり、地域としても学校を支えていくということができたら、小中一貫等の広がった中でもiCSの仕組みも広がると思うので、そうすると、板橋区全体の学校が、板橋区の地域と協働していけると思うので、心強い仕組みだと思っています。



第1回推進委員会基本情報

- ◆日時：平成30年5月19日（土） 11時00分～
- ◆会場：成増小学校 校長室
- ◆会次第：①校長挨拶
②副委員長選任
③自己紹介
④学校経営方針について
⑤年間活動計画について
⑥学校支援地域本部活動報告
⑦熟議「成増の地域の目指す子ども像について」

07 高島第六小学校

平成 30 年 6 月 5 日(火) 回答者：阿部 誠一 校長先生

Q 委員の人選はどのようなことを考慮しましたか？

A 学校運営連絡協議会の委員を活かしつつ、おやじの会や寺子屋のスタッフ等の学校を支援していただいている団体の代表の方にも入っていただきました。

Q 副委員長に PTA 会長を選任しましたが、平成 32 年度の本格実施の際も PTA 会長が委員長というお考えはありますか？

A PTA 会長が 3 年も 4 年もやるわけではないので、この 2 年間の間で委員長を引き受けてくれる力のある方を選んでいこうと思っています。

Q 会議の開催にあたり、不安や悩み等がありましたか？

A 時間帯が 1 番心配でした。会社員の方や自営業の方もいらっしゃるの、開催時間を工夫していかないといけないとは感じます。

Q 現在、学校が抱えている課題等がありますか。

A 先生方の心配ごとを解消するためにも、特に生活の部分で配慮を要する子どもがいるので、そこを何か手助けしてくれるような人が欲しいです。

こちらからも人材を探してくれと言われてもなかなか探せないもので、地域の方のほうで子どものことをよく知っていると思うので、入っていただけるとありがたいです。

Q 先生の負担軽減を視野に入れた学校経営に i C S をどう活用していきたいですか？

A 家庭科の調理実習とかミシンとかそういったことを手伝ってもらえるとありがたいです。

Q i C S を推進する上で、校長先生や委員長としてどうしていきたいですか？

A i C S を進めていく中で、学校を支援してくれている団体が、どのような活動をしているのか先生たちが具体的に知らないと思うので、団体の方に職員会議で話して



もらったり、保護者会で話してもらったり、全校朝会で子どもたちに話してもらったりしています。まず、どんなことをしているのかを発信していくということが今回 1 つの始まりかなと思います。あとは、それぞれの活動をいったん整理して、一体・協働の関係につなげていくことも役目だと思います。

Q 推進委員会を運営してみて、他の 63 校の校長先生に向けたアドバイス等があればお願いします。

A 校長が自分の足で地域に入って行って、どのような活動があるのかを 1 度見て体験した方が良いかなと思います。そうすることで地域の方とも信頼が深まっていくと思います。

Q ずばり、iCSをひとことで表現するとどのような表現になりますか？

A 「地域に根ざした子どもたちの育成」だと思います。

Q iCSに期待することを教えてください。

A 区長さんが言っている東京都で 1 番住みたくなるまちいたばしになることを期待しています。その次に、板橋区で 1 番通いたくなる学校高六小があります。



第 1 回 推 進 委 員 会 基 本 情 報

- ◆日 時：平成 30 年 5 月 10 日（木） 13 時 30 分～
- ◆会 場：高島第六小学校 会議室
- ◆会次第：①コミュニティ・スクール推進委員会概要
②高六小学校実働部門の実際
③区教育委員会からの資料
④学校経営方針について
⑤学校教育活動について
⑥コミュニティ・スクール推進委員会 年間予定表
⑦その他

08 板橋第一中学校

平成 30 年 6 月 6 日(水) 回答者：増田 裕子 校長先生

Q 委員の人選はどのようなことを考慮しましたか？

A 本校は、学校運営連絡協議会の委員からスライドしていますが、委員数が、コミュニティ・スクール推進委員会の委員数より多かったので、お一人の方に主旨を説明して、ご遠慮いただき、委員を決定しました。



Q 会議開催の際に不安等ありましたか？

A 従来の学校運営連絡協議会とコミュニティ・スクール推進委員会の違いというところをうまく説明できるかが不安でした。

Q 会議開催の日程はどのように決めていますか？

A 平日はお仕事の方が多く、あまり夜遅くの会議も委員の時間を奪ってしまうということもありますので、1 番参加しやすい土曜授業の午前中にしています。ですが、今後熟議を行うにあたり、その日だけでは足りないと思いますので、その時は別日に設定ということになると思います。

Q 熟議のテーマについては決まっていますか？

A 学力向上です。学力の向上のために、現状を学校だけでなく地域の方にも分かっていたいて、「みんなでやっぺいこう」とする方が、将来継続できると思っています。今年、校訓についても地域と一緒に作ろうと思っているので、校訓についての意見もいただこうと思っています。

Q 先生の負担軽減を視野に入れた学校経営に iCS をどう活用していきたいですか？

A 放課後学習教室を学校支援地域本部でやっぺいっており、複数の方が手伝ってくださっぺいて、学習確認テストの丸付けもしていただいています。大人の目があるということは、すごく大事で、色々な方がたくさん授業に入ることが当たり前の学校にすることで、先生方の負担は減ると思います。そこが最終的には先生の働き方改革にも結びつきますし、先生の教材研究の時間にもなると思います。

Q iCS を推進する上で、校長先生や委員長としてどう運用していきたいですか？

A 1 年間でどのくらいのことのできるのかというゴールがはっきりしていることが大事だと思います。

学校経営計画は、丁寧に説明しないと地域の方々には分かりづらいところもあると思いますが、わかるところ・理解できるところから一緒にやっぺいけたら良いと

思っています。

Q 推進委員会を運営してみて、他の 63 校の校長先生に向けたアドバイス等があればお願いします。

A 管理職は地域のお祭りや行事に顔を出していますが、教員レベルで地域の方とつながる人材が多ければ多い程、コミュニティ・スクールは上手くいくと思います。

Q ずばり、iCSをひとことで表現するとどのような表現になりますか？

A 「地域が支える学校」です。

Q iCSに期待することを教えてください。

A 大阪の大空小学校の中学校バージョンができればと考えています。中学校らしくできると、もっと中学生が地域の人のために動けると思います。地域のために自主性をもって働ける年代なので、そのような環境を作ることもコミュニティ・スクールの役割だと思っています。



第 1 回 推 進 委 員 会 基 本 情 報

- ◆日 時：平成 30 年 4 月 21 日（土） 9 時 00 分～
- ◆会 場：板橋第一中学校 校長室
- ◆会次第：①校長挨拶
②委嘱状交付
③学校経営方針について
④副委員長選任
⑤年間行事予定
⑥情報共有・意見交換

09 加賀中学校

平成 30 年 6 月 5 日(火) 回答者：水谷 智子 校長先生

**Q 第 1 回推進委員会に全教職員が参加していましたが、
毎回集まることは難しいですか？**

A 時間的にとるのは難しいと思います。これまでの学校運営連絡協議会の場合だと、管理職と主幹レベルでしたが、そこに他の先生も入ると時間の制約とかもあるので、毎回全教職員が参加することは難しいと思います。



Q 副委員長の選任はどのようにして行いましたか？

A 地域コーディネーターの方は、若くてフットワークも軽いので、ぜひお力を借りたいと思い依頼しました。

Q 会議開催の日程はどのように決めましたか？

A 1 回目は、全教職員が参加できるように、職員会議がない水曜日に設定しました。2 回目以降については、近隣校の小学校長も委員として入っているのので、土曜授業プランにあててしまうと校長先生が参加できないため、平日に設定する予定です。

Q 熟議のテーマについては決まっていますか？

A 部活動について話し合いたいと思っています。地域の方の要望としては部活動を熱心に行ってほしいという要望が強いですが、生徒や保護者の思い、教職員の働き方改革等との関係で、部活動の在り方が変わってきている現状があります。ですから、共通理解を深めるための話し合いが必要だと考えています。

Q 現在学校が抱えている課題等がありますか？

A 教員の中には、「働き方改革」と言われても、これまでの意識や行動を変えることが難しい方もいます。地域の方にどこの部分をお願いできるのかを検討して、「地域の中で子どもを育てる」という意識を持つように、教員の意識を変えていくことが課題になっています。

Q iCS を推進する上で、校長先生や委員長としてどう運用していきたいですか？

A 「地域に根ざした学校」というのが公立学校の強みであると思うので、地域が求める子ども像、地域の願いをきちんと把握して、それを基に学校経営をしていかないといけないと思っています。そのためには、地域の方の意見をどんどん聞かせていただいて、それを取り入れていく必要があると思っています。

Q 推進委員会を運営してみて、他の 63 校の校長先生に向けたアドバイス等があればお願いします。

A 本校の場合は、学校支援地域本部がかなり充実していたので、コミュニティ・スクール導入に向けた動きが上手く進んでいると考えています。やはり、地域の教育力が形として皆さんの目に見えてくるには、「実働」が大切だと思います。ですから、今年度中に実働の部分の充実を図っておいた方が良いのではないのでしょうか。

Q ずばり、iCSをひとことで表現するとどのような表現になりますか？

A 「地域の学校」じゃないでしょうか。

Q iCSに期待することを教えてください。

A 板橋の子どもたちが生き生きと成長できることです。



第 1 回 推 進 委 員 会 基 本 情 報

- ◆日 時：平成 30 年 4 月 18 日（水） 14 時 45 分～
- ◆会 場：加賀中学校 図書室
- ◆会次第：①校長挨拶
②委嘱状交付
③教職員紹介
④学校経営方針について
⑤学校支援地域本部活動の報告・計画
⑥副委員長選任
⑦委員紹介

10 赤塚第三中学校

平成 30 年 6 月 15 日(金) 回答者：須田 淳一 校長先生

Q 委員の人選はどのようなことを考慮しましたか？

A 従来の学校運営連絡協議会のメンバーとともに、板橋区コミュニティ・スクール導入推進校として、「赤塚っ子学びのエリア」である各小学校の中で、確実にイニシアチブをとる方を 1 名ずつ選び、本校の取組を参考にそれぞれの小学校でリーダーシップをとってもらいたいことを委員候補の方に説明し同意をいただきました。



Q 副委員長の選任はどのようにして行いましたか？

A 本校の教育活動や学校経営方針をよく理解し、支援していただいているだけでなく、厳しい忌憚のない意見を述べられ、地域の中で活躍されている行動力・実践力・説得力があり、赤塚第三中学校を 1 番愛してくれている方をお願いしました。

Q 会議開催日程については、どのようなことに考慮していますか？

A 委員の皆さんは仕事をされているので、全員が参加していただけるようなおもてなしの配慮は当たり前のことと認識しています。また、会議の開始、終了時間については、必ず厳守するよう心掛けています。

Q 現在学校が抱えている課題等がありますか？

A 確かな学力の定着と向上、不登校生徒の減少、いじめ非行ゼロ、開かれた学校から地域とともにある学校への転換等があります。

Q 現在学校が抱えている課題等を iCS で取り上げていきますか？

A 昨年度までの学校運営連絡協議会でも、学校の課題はサービス事故も含めて報告・連絡・相談しており、熟議のテーマとして取り上げているので、今後もそのスタイルで行きたいと思っています。

Q 教員の負担軽減を視野に入れた学校経営に iCS をどのように活用しますか？

A 教員とは、校長のリーダーシップの下、話し合いは普段からしていますが、校務分掌の整理はもちろんのこと、会議の在り方をはじめとした働き方改革についても、推進委員会で検討したいと思います。

Q iCSを推進する上で、校長先生や委員長としてどうしていきたいですか？

A 教職員・推進委員会の方の力を結集して、本校の課題に正対し、課題の分析、検証、ふりかえりを実践していきます。また、明るく、元気に、前向きに、教育の評論家ではなく実践家として、「学び変え続ける校長は学び続ける教職員を育て、学び続ける教職員は学び続ける生徒を育て、学び続ける生徒の姿は保護者・地域を学校の応援団にする。」を率先垂範していきたいです。

Q 推進委員会を運営してみて、他の63校の校長先生に向けたアドバイス等があればお願いします。

A それぞれの学校の特性があるわけなので、他校の校長先生へのアドバイス等はありませんが、私はiCSを受けて、学校を大きく変える絶好のチャンスだと思っています。

Q ずばり、iCSをひとことで表現するとどのような表現になりますか？

A 「学校を大きく変える絶好のチャンス」です。

Q iCSに期待することを教えてください。

A 期待するのは校長ではなく、生徒であり、保護者であり、地域住民であると思っています。そのニーズに応えるのが赤三中の校長としての使命です。



第1回推進委員会基本情報

- ◆日時：平成30年5月2日（水） 16時00分～
- ◆会場：赤塚第三中学校 図書室
- ◆会次第：①自己紹介
②委嘱状交付
③学校経営方針について
④情報共有・意見交換